

# 平成27年度青森県協同農業普及事業外部評価委員会における評価結果及び改善策

## 【普及指導活動の体制】

内 容	評価結果	主な意見等	普及指導活動体制の改善策
普及指導の組織体制、人員の動向、資質向上の取組状況等	A：2名 B：2名 C：1名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人員確保と職員のレベルアップが必要ではないか。</li> <li>・ 普及指導員資格試験の合格率アップを図るため、研修の充実が必要ではないか。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普及指導職員自身から1人の負担が多すぎるとい声も聞こえているので、できるだけ人員を減らさないでほしい。</li> <li>・ 人員がこれ以上減少しないようにしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普及指導職員の資質や能力を継続的に向上させ、長期的な視点から普及事業に必要な人材を育成するため、人材育成計画を策定する。</li> <li>・ 研修体系を見直しの上、研修の充実を図る。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行財政改革が進む中、できるだけ現在の人員の維持を図るとともに、引き続き、効果的かつ効率的な普及指導活動を行う。</li> </ul>

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

【主な普及指導計画】

東青地域県民局地域農林水産部

課 題 名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
地域経営を担う集落営農組織の法人化と経営改善支援	A：2名 B：3名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導対象組織の効率的運営と収支計画も目標達成できるよう、支援を継続してほしい。</li> <li>・赤字にならないように、法人設立後の経営指導をしてほしい。</li> <li>・法人化後の支援を今後もしっかりしてほしい。</li> <li>・法人化後のアフターフォローやコンサルティングの視点も入れてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人化後の経営改善支援として、パソコンによる経理や事業計画の策定など法人設立初期の運営を継続的に支援する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落営農組織以外の法人化（1戸1法人など）の推進も必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1戸1法人の設立については、これまで要請に応じて対応していたが、新たに普及指導計画の課題として設定する。</li> </ul>

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

【主な普及指導計画】

中南地域県民局地域農林水産部

課 題 名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
<p>「青天の霹靂」による「特A」クラス米の安定生産</p>	<p>A：3名 B：1名 C：1名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導対象の拡大など28年度以降の活動を充実してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術普及拠点ほを現在の13箇所から15箇所に増やし、生育状況の情報提供や施肥指導などの現地指導を強化する。また、各JAの生産組織を対象に新規作付け者を重点的に指導する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・JAや地域農家との更なる連携が必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産指導プロジェクトチーム構成員のJA担当者や技術普及拠点ほ担当農家と、引き続き、濃密に連携して取り組む。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・登録生産者全員が意識統一を図り、栽培技術の徹底、種子を流出させないこと、一元集荷してブランド化に向けて取り組んでほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「良食味・高品質栽培マニュアル」に基づく良食味米生産に向けた栽培を徹底させるとともに、登録生産者要件の遵守を引き続き喚起し、ブランド米としての評価確立について生産者の意識向上を図る。</li> </ul>

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

【主な普及指導計画】

中南地域県民局地域農林水産部

課 題 名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
<p>「つがるのミニトマト」 生産拡大の推進</p>	<p>A : 3名 B : 2名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢化により、大玉トマトからの転換も視野に入れる必要があるのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者を含め、大玉トマトの安定生産が困難な生産者に対し、引き続き、JA指導員と連携しながら、ミニトマトへの転換を誘導する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新規就農者が情熱を持ち続けていけるような体制を考えてほしい。</li> <li>・ 青年就農給付金を広く活用させ、新規就農者が取り組めるようにしてほしい。</li> <li>・ 就農希望者の更なる掘起こしが必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新規就農者等の相談員制度を定着化し、経営安定を図るほか、新規就農者間の情報交換を活発にし、互いの交流を進める。また、市町村やJAも参画する「つがるのミニトマト」生産振興検討会において、引き続き新規就農者等について情報共有し、青年就農給付金の活用を図りながら、掘起こしを行う。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後は共選体制の確立も必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係機関で構成する生産振興検討会で、共選体制の事例を収集し、確立を検討する。</li> </ul>

評価区分 A : 大いに評価できる B : 概ね評価できる C : やや評価できる D : 一部改善が必要 E : 大幅な改善が必要

【主な普及指導計画】

三八地域県民局地域農林水産部

課 題 名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
地域農業を担う法人の育成	A：2名 B：1名 C：2名	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人化により、水稻のコスト低減と安定生産を図ること、経営改善に向けた新規作目（収益性重視）の選定が必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水稻の生産コスト低減を図るため、新規設立法人への農地集積や、主食用米や飼料用米など品種ごとのほ場の団地化を進める。</li> <li>水稻の生育観測ほを設置し、生育調査結果等から良品質・安定生産に向けた指導を行う。</li> <li>所有機械、施設や労働力を加味した新規作物の導入を検討する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>農業の将来を見た時点での法人化への誘導を今後も粘り強く続けていってほしい。</li> <li>法人化のメリット、デメリットを納得させることが必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人化のメリットやデメリットを更に農業者が具体的にイメージできるような資料を作成し、話し合いを行う。また、法人化推進のリーダーを育成し、法人化を誘導する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>先進地事例研修等も必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市町村やJA、法人化推進のリーダー等と先進地視察研修等を行い、具体的に地域に合った法人の検討を行う。</li> </ul>

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

【主な普及指導計画】

三八地域県民局地域農林水産部

課 題 名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
選果データを活用したも も高品質安定生産の推進	A : 3名 B : 2名	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産者の技術レベルの差を少なくすることが肝要であるため、栽培指導の徹底をお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各生産者の技術レベルの高位平準化を図るため、定期的な講習会の開催や園地巡回、個別指導等を強化する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>果物は見た目よりも味を重視する生産指導を行ってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在使用している光センサー選果機により、食味の良い果実を消費者に供給できることから、引き続き、外観のみならず、食味重視の栽培指導を行う。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>J A 営農指導員との連携強化が必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>J A 営農指導員との連携強化を図るため、指導に関する年間計画の作成や役割分担を行い、指導に当たっての連絡や打ち合わせ等を綿密に行う。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>下位等級の生産者への指導方針は参考になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>下位等級の生産者への指導カードの配布や園地巡回、個別指導等により、意識の向上や作業改善が図れたので、引き続き、実施する。</li> </ul>

評価区分 A : 大いに評価できる B : 概ね評価できる C : やや評価できる D : 一部改善が必要 E : 大幅な改善が必要

【主な普及指導計画】

西北地域県民局地域農林水産部

課 題 名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
経営規模拡大に対応した 西北型稲作省力・低コスト 技術体系の普及	A：4名 B：1名	・直播の収量性向上（除草と倒伏対策）に 取り組む必要があるのではないか。	・直播栽培の展示ほを 活用し、現地検討会を 開催することにより、 引き続き、除草及び 倒伏対策の指導を行う。

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

【主な普及指導計画】

上北地域県民局地域農林水産部

課 題 名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
上北トマトの生産拡大による産地力強化	A：2名 B：3名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化に対応した省力化対策も視野に入れた方が良いのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに、高齢化に対応した省力的なUターン誘引技術の導入指導を行う。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・循環扇の設置台数の目標はクリアしているが、戸数にすれば少ないと思うので、戸数を目標に設定した方が良いのではないか。</li> <li>・目標の見直しが必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果目標として、循環扇の設置台数に加え、新たに、導入戸数を設定する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地指導の強化、展示ほの設置が必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地指導を強化するとともに、新たに、防虫技術等の展示ほを設置する。</li> </ul>
飼料用米の低コスト・安定生産と地域内流通体制の整備	A：2名 B：3名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収量性の向上が必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに、低コスト・省力栽培展示ほを設置し、収量性の向上も含んだ栽培技術の指導を行う。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・飼料用米作付農家と畜産農家とのマッチング活動の更なる推進が必要ではないか。</li> <li>・マッチング活動を成果目標の指標にすることはできないのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回指導やマッチングフォーラムを通して相対取引を推進するとともに、成果目標として、新たに、マッチング契約面積を設定する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・給与マニュアルによる課題の早期解決が必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飼料用米の給与により、牛がミネラル不足等になる場合があることから、血液検査結果と併せて、引き続き、給与マニュアルに基づいた給与指導を行う。</li> </ul>

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要



【主な普及指導計画】

上北地域県民局地域農林水産部

課 題 名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
次世代を担う若手女性農業者の育成とネットワーク化の推進	A：4名 B：1名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・首都圏でのイベント参加旅費を事業で負担しているうちは参加するが、自費になると参加希望がなくなるので、それをどうするか考える必要があるのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・首都圏でのイベントを実施している市町村やJA等に対し、「畑美人」を活用（同行）するよう誘導するとともに、地域内外で自主的に活動できる女性経営者が「畑美人」から誕生するよう指導を行う。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェイスブックによる情報発信を担当する職員の負担は大変だと思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェイスブックによる情報発信は、登録会員の意見交換や取組のPRに有効であると考えていることから、引き続き、可能な範囲で対応する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動に参加しやすい環境づくりが必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、アンケート等で把握した興味がわく内容や時間帯・場所などの要件を最大限配慮して講座やイベント等を開催するほか、子ども同伴でも参加できる環境づくりを行う。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・男性主体組織での説明会の開催が必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の理解を得た活動ができるよう、新たに、男性主体組織へのPRを行う。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果がはかりにくい課題に感じられる。</li> <li>・女性農業者の活動はとても大事であるので、引き続き頑張ってもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度に、登録会員及び関係機関から感想や意見を聞き取り、会員（女性農業者）の意識や行動の変化を成果としてとりまとめ、その後の活動内容を検討する。</li> </ul>

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

【主な普及指導計画】

下北地域県民局地域農林水産部

課 題 名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
下北地域における「ほっかりん」産地化の推進	A : 2名 B : 3名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タンパク質含有率を指標とした良食味米づくりの指導が必要ではないか。</li> <li>・良食味、安定生産を基本に、販売流通量の確保に向けた取り組みが大事と考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良食味生産につなげるため、生産農家の耕種概要（施肥設計）と玄米タンパクの調査を行う。</li> <li>・生産農家を参集し、試食と併せて栽培体系についての情報交換会を開催し、栽培技術の向上を図る。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・販売先の確保が作付農家の増加にもなることから、更なるPRが必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの活動により、地域内での知名度は年々増加しており、引き続き、PRを行う。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内認知を高める活動も重要だが、もう少し先を見据えた戦略、計画が必要ではないか。</li> <li>・売り方、品種の特徴の明確化など生産者をも巻き込んだ議論が必要ではないか。</li> <li>・「ほっかりん」という名称は気に入っている。販路を下北地域以外にも広める方法はないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産農家や関係機関で構成する「良食味米『ほっかりん』の産地化に係る地域推進会議」において、生産や販売計画等の協議を行う。</li> </ul>

評価区分 A : 大いに評価できる B : 概ね評価できる C : やや評価できる D : 一部改善が必要 E : 大幅な改善が必要